

(非公開/旧シーズ)タイラギ斃死の原因解明と養殖技術の開発

教授・逸見 泰久

くまもと水循環・減災研究教育センター 沿岸環境部門

▶ 研究内容

タイラギ斃死の原因解明と養殖技術の開発

タイラギ斃死の原因解明と養殖技術の開発

沿岸域環境科学教育研究センター 生物資源循環系解析学分野

教授・逸見 泰久

URL <http://engan.kumamoto-u.ac.jp/>

E-mail henmi@gpo.kumamoto-u.ac.jp

タイラギに関する研究内容

研究の目的 タイラギは、有明海ではアサリに次ぐ水産有用二枚貝である。しかし、有明海ではタイラギの斃死が頻発し、漁業者は休漁を余儀なくされている。本研究は、タイラギの斃死原因の解明と養殖技術の開発を通して、タイラギ資源の持続的な利用を可能にすることを目的とする。

研究の成果 斃死は、タイラギの主要な生息地である浅海域では起きたが、干潟では起きなかった。斃死の起きる海域ではタイラギの成長が悪く、生殖腺の発達も悪かった。現時点では、タイラギ斃死は、貧酸素水塊の発生と、底泥の悪化が原因と考えられる。

また、タイラギを垂下養殖すると、浅海域でもタイラギは死亡せず、貝柱の成長がよいことが明らかになった。これについては、現在、特許申請中である。

生態学の水産資源保全への応用

当方が目指しているのは生態学の水産資源保全への応用である。水産有用種の生活史や生息状況の把握なしには水産資源の保全はあり得ない。

資源量推定と漁獲量や漁獲時期の決定といった管理漁業は九州ではほとんど行われていないのに等しい。既に「採れるだけ採る漁業」は有明海を始めとする九州の沿岸域では不可能である。今後は「育てる漁業」だけでなく「管理型の漁業」が求められる。そして、そのためには生態学の基礎的研究が生かされると考えている。

タイラギの垂下養殖

[キーワード] タイラギ マガキ 斃死 養殖技術 有明海 生態学の水産資源保全への応用

垂下養殖の技術は他の二枚貝にも応用できると考えている。当方は干潟におけるマガキの養殖研究も行っており、特に水産関係の共同研究者を募集している。

▶ アピールポイント

垂下養殖の技術は他の二枚貝にも応用できると考えている。当方は干潟におけるマガキの養殖研究も行っており、特に水産関係の共同研究者を募集している。

▶ キーワード

タイラギ マガキ 斃死 養殖技術 有明海 生態学の水産資源保全への応用

